釜ヶ崎夜間学校二

2011 (平成 23) 年 8月12日号 第 196 号

地獄の釜もかくあらん 思う猛暑の盂蘭盆会

てなことで、青森県は下北半島恐山の賽の河原と地蔵さん

差が激しく、 が という名の広大な 湖 ということだそうです。 ませんが、五角形の立て札の後ろに見えるのが、宇曽利 青森県むつ市では、8月1日の最高気温が 一下の写真は、恐山の「賽の河原」。 最低気温の平均は、 20 度前後。

> 大阪での現実的な避暑は、生活おおさか げんじつてき ひしょ せいかつ ケアセンターへ入るぐらい うことはないと思うが・・

釜ヶ崎夜間学校

旅行」ということに

人が立っています。見比べると、 人が立っています。見比べると、結構、大きなお地蔵さひと、たいのだそうです。右下の写真では、そのお地蔵さんの前にものだそうです。右下の写真では、そのお地蔵さんの前に 暑い日もあるようですが、 イタコで有名な恐山 写真ではよく判りしゃしん

『賽の河原地蔵和讃』

ではえっ 一重積んでは父の為 ふたぇっ 二重積んでは母の為 かっぇっ 三重積んでは西を向き にし む にし む にもからさ にきみほど て あ 格程なる掌を合わせ

郷里の兄弟我ためと 郷里の兄弟我ためと いた おきなご あら痛はしや幼子は なくなくいし はこ 泣々石を運ぶなり

手足は石に擦れただれ
ゆび い ち しずく
指より出ずる血の滴
からだ あけ そ
体を朱に染めなして

 まそろ あら怖しや獄卒が かがみてる ひ まなこ 鏡 照日の 眼 にて まさな もの にら 幼 き者を睨みつけ

が らが積む塔は かくる 歪みがちにて見苦しし がく くどく 斯では功徳になり難し

たうそうこれ っ なお 疾々是を積み直し にようぶつねが しか 成 仏願へと呵りつつ での ぼう ち より あ 鉄の 榜苔を振上げて とう のこ うち ち 塔を残らず打散らす

あら痛しや幼子は またうち & なきさけ 又打伏して泣叫び か Leく すき な 呵責に隙ぞ無かりける

The phrote 罪は我人あるなれど こと ことも つみとが 事に子供の罪科は はは たいない とっき 母の胎内十月のうち くつうさまざまう 苦痛様々生まれ出で

きんねん ごねんしきねん 三年五年七年を たままで とままで となが一期に先立つて ないのででである事 だいいちおも つみ 第一重き罪ぞかし はは ち が と と と と と と き が の 乳房に 取 り つ い て き も 乳の 出 で ざる 其 の 時 は せ ま り て 胸 を 打 叩 く はは 母 は こ れ を 忍 べ ど も な ど て 報 の 無 か る べ き

が ざいか ゆえ かから まよいき **賽**の河原に 迷 来て なが くかん う 長き苦患を受くるとよ

かわら なか なが 河原の中に流れあり にきば なげ ちちはは 娑婆にて歎く父母の いちねんとど かげうつ 一念届きて影写れば

なっ なう懐かしの父母や 5ぇ すく たま 飢を救ひて給へと 5.5 しと はいよ 乳房を慕ふて這寄れば

かして おきなご 中にも 賢き 幼子は Pにも 賢き 幼子は Eta た お 色能き花を手折りきて 世できる E をできる をでまっ 地蔵菩薩に 奉 り ぎんじかしゃく のが 暫時呵責 を免れんと

はいず ことももられてに 記出る子供等は に 記出る子供等は 胞衣を 頭 に 被りつつ は ### お る事も叶はねば が が 原に捨てたる枯花を が 原に として 痛はしや

はたけ まえ はいゆ 仏 の前に這行きて じぞうぼさっ たてまっ 地蔵菩薩に 奉 り しゃくじょうほう え とりっ 錫 杖 法衣に取付いて たす たま 助け給へと願ふなり